

米軍オスプレイの岩国基地を拠点とする訓練に抗議し、 配備撤廃を求める声明

小野寺防衛大臣は、2月28日、米軍普天間基地に配備されている垂直離着陸輸送機MVオスプレイ12機のうち3機が、3月6日から8日にかけて、米軍岩国基地を拠点に低空飛行訓練や夜間訓練を行うと米国から連絡を受けたことを明らかにした。米軍により当初九州で飛行訓練すると通知されたが、直前に変更され、四国～紀伊半島で飛行訓練が実施されている。オスプレイ配備に当って作成した米軍の環境審査書報告書は、低空飛行訓練を本州、四国、九州の計6ルートで行うとしたが、日本本土で訓練が行われるのは今回が初めてとなる。

オスプレイは、空中給油を行えば沖縄～北朝鮮間の往復や中国への飛行も可能となる高性能の軍事輸送機であり、極めて侵略性の高い兵器である。米国がこのような兵器の配備・訓練を行う理由は、オバマ大統領の「新防衛戦略」に基づきアジア太平洋・中国への軍事態勢を強化するためである。このような侵略兵器の配備を容認することは、平和国家である我が国において許されない。

また、オスプレイは、開発段階から墜落事故を繰り返しており、すでに死者36人と負傷者7人を出し「未亡人製造機」と呼ばれる安全性に構造的欠陥がある機体である。このような危険な兵器を用いて低空飛行訓練・夜間訓練を行うことは、日本国民全体の生命安全を無視する行為であり許されない。

オスプレイの配備・飛行に対しては全国各地で反対運動が広がり、全国の自治体で反対決議が相次いでいる。このような民意に反して政府が米軍によるオスプレイの配備・飛行を拒否できず、今回のように直前に訓練場所の変更を一方的に通知されるような事態が生じるのは、日米安全保障条約があるからに他ならない。オスプレイ反対の運動を進めるには、安保条約は日本の防衛のためではなくアメリカの戦略のためのものであるという安保条約の本質を広めていくことが重要である。

自由法曹団は、米軍オスプレイの岩国基地を拠点とする訓練に抗議し、配備撤廃を求める。

2013年3月13日

自由法曹団

団長 篠原義仁